

**[成果情報名]アスパラガスの太もの増収のための適正な立茎開始時期**

**[要約]**アスパラガスの半促成長期どり栽培における立茎開始時期は、春芽の収穫開始40～60日後に行うと全体収量が最も多く、中でも単価の高い太ものの収量は収穫開始50～60日後に行うと最も多い。

**[キーワード]**アスパラガス、立茎、収量、太もの

**[担当]**総合農林試験場・作物園芸部・野菜科

**[代表連絡先]**電話0957-26-3330, 電子メールk-inoue@pref.nagasaki.lg.jp

**[区分]**野菜

**[分類]**指導

---

-----[背景・ねらい]

アスパラガスの半促成長期どり栽培における立茎開始時期の目安の一つは、1日当たりの収量が1kg/aを下回るころである（ながさき普及技術情報，16，p78-79）。一方で、生産者は春芽の単価が高いため、立茎が遅れがちになっている。そこで、アスパラガスの収量、特に単価の高い階級である太もの（L級以上）と春芽の増収のための適正な立茎開始時期を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 4年生株では、春芽の収量は収穫開始90日後に立茎をした方が最も多いが、夏芽、1年目合計、および翌年の春芽を含めた全期間の合計収量は収穫開始50日後が最も多い。
2. 8年生株では、春芽の収量は収穫開始50～80日後が多い。夏芽および翌年の春芽の収量は同40～60日後が多い。全期間の収量は、収穫開始40～60日後が多く、同70～80日後では少ない。
3. 4年生株では、全期間を通した太ものの収量は収穫開始50日後が最も多い。
4. 8年生株では、全期間を通した太もの、そして春芽の収量は収穫開始50～60日後が最も多い。

**[成果の活用面・留意点]**

1. アスパラガスの半促成長期どり栽培地域に適用できる。
2. 春芽の収量が少なかったり、階級が小さい場合は早めに立茎する。

[具体的データ]

表1 ‘UC-157 (ウエルカム)’ の立茎開始時期が収量に及ぼす影響

株の齢 (春芽収穫開始後の日数)	立茎の開始時期		可販収量 (kg・a <sup>-1</sup> )													全期間の合計		
	1年目						2年目						年間合計					
	春芽			夏芽			翌年の春芽											
	2月	3月	4月	小計	5月	6月	7月	8月	9月	10月	小計	2月	3月	4月	小計			
4年生株	10日	9	25	12	46	17	32	30	26	15	3	123	169	39	35	11	86	255
	50日	11	48	19	78	7	32	33	31	35	6	143	221	34	33	12	79	300
	90日	9	49	30	88	6	3	8	16	11	3	47	136	42	19	5	66	202
8年生株	40日	23	84	13	121 ±5	31	62	70	53	34	17	266 ±9	386 ±14	29	79	42	150 ±9	536 ±22
	50日	24	82	36	142 ±5	28	59	68	54	35	18	263 ±14	405 ±19	32	86	35	153 ±7	558 ±25
	60日	20	78	52	150 ±2	25	57	71	54	35	21	253 ±18	403 ±19	33	87	42	162 ±5	565 ±14
	70日	20	75	58	153 ±5	17	38	52	42	26	18	192 ±9	345 ±14	27	46	20	93 ±8	438 ±22
	80日	17	73	65	156 ±5	11	23	44	41	29	16	164 ±13	320 ±14	26	39	18	84 ±5	404 ±18

注) 保温開始は1月20日, 8年生株では平均値±標準誤差 (n=3)

表2 ‘UC-157 (ウエルカム)’ の立茎開始時期が若茎の階級に及ぼす影響

株の齢 (春芽収穫開始後の日数)	立茎開始時期		階級別の可販収量 (kg・a <sup>-1</sup> )										合計		
	春芽			夏芽			翌年の春芽								
	L級	M級	S級	L級	M級	S級	L級	M級	S級	L級	M級	S級			
4年生株	10日	41	4	1	66	38	20	46	24	16	153	66	36		
		(90)	(8)	(2)	(53)	(31)	(16)	(54)	(28)	(18)	(60)	(26)	(14)		
	50日	60	13	5	63	48	31	48	21	10	171	83	46		
		(77)	(17)	(6)	(44)	(34)	(22)	(61)	(27)	(13)	(57)	(28)	(15)		
	90日	60	21	8	9	19	20	37	20	9	105	59	37		
		(68)	(23)	(9)	(19)	(39)	(42)	(56)	(30)	(14)	(52)	(29)	(18)		
8年生株	40日	93	17	10	181	57	27	129	15	6	403 ±16	89 ±3	44 ±2		
		(77)	(14)	(8)	(68)	(22)	(10)	(86)	(10)	(4)	(75)	(17)	(8)		
	50日	108	21	13	163	72	28	129	17	7	400 ±23	109 ±7	48 ±4		
		(76)	(15)	(9)	(62)	(27)	(11)	(84)	(11)	(5)	(72)	(20)	(9)		
	60日	108	27	15	158	75	21	136	17	9	402 ±6	120 ±7	44 ±2		
		(72)	(18)	(10)	(60)	(29)	(8)	(84)	(10)	(6)	(71)	(21)	(8)		
	70日	105	29	19	93	64	36	76	11	6	275 ±23	103 ±3	60 ±1		
		(69)	(19)	(12)	(48)	(33)	(19)	(82)	(12)	(6)	(63)	(23)	(14)		
	80日	103	31	23	78	51	34	65	13	5	246 ±16	96 ±6	62 ±5		
		(66)	(20)	(15)	(48)	(31)	(21)	(78)	(16)	(7)	(61)	(24)	(15)		

注) 括弧内の数値は重量%を表し, 可販収量に対する各期間の割合として算出, 8年生株の合計は平均値±標準誤差 (n=3)

[その他]

研究課題名：施設野菜の次世代型栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2001～2006年度

研究担当者：井上勝広, 重松 武 (農業経営課)